

科目名称	学科入門セミナー (F)		授業コード	10619982
担当教員	笹崎 綾野	瀬能 徹、金沢 香恵、権 裕美、見寺 貞子		
単位数	1	授業形態		科目分類
年次	1	開講年度	2023	開講学期
関連資格				

授業実施方法	対面授業
使用するアプリ等	KDU ポータル、teams
履修制限等	
授業の目的と到達目標 (学習成果)	グループワークを体験し、提示された課題を計画・実行できる。
授業計画の概要	大学や大学生生活に慣れ、ファッションデザイン学科での学びに触れることを目的とする。デザインのアプローチやプレゼンテーションの方法について教員と共に考え、ファッションデザインに関わるテーマに基づいたグループワークを計画・実行する。
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション ・グループワーク1 (ディスカッション) ・グループワーク2 (構想・デザイン) ・グループワーク3 (制作) ・プレゼンテーション準備 ・発表 ・まとめ <p>※課題については授業内で説明する。</p>
実務経験のある教員	
授業時間外学習	グループの制作プランに沿って、自主制作を行うこと。
評価方法	1) 計画書・レポート 40%、成果物 30%、発表 20%、取り組み姿勢 10%で評価する。 2) 成果物を提出しない場合はE評価となる。
指導方法	発表にて、成果物の講評を行う。
使用テキスト	必要に応じて資料を配布する。
参考テキスト・URL	
各自準備物	準備物がある場合は、事前に授業内で告知する。
実習費	制作に必要な材料費やリサーチに必要な交通費は自己負担とする。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・ファッションデザイン学科の学生は履修するのが望ましい。 ・学科プログラムに関する詳細な日時、場所、課題内容は、学科オリエンテーションにて発表する。

科目名称	民族衣装論		授業コード	20042041	
担当教員	新田 恭子				
単位数	2	授業形態	講義	科目分類	選択
年次	1	開講年度	2023	開講学期	後期
関連資格	教職				

授業実施方法	対面
使用するアプリ等	
履修制限等	
授業の目的と到達目標（学習成果）	多様な文化背景をもつ「おしゃれ」の事例に数多く接し、理解を深められる。 日本と東アジア、東南アジア、南アジア地域の民族衣装の特性を説明できるようになる。 日本と東アジア、東南アジア、南アジア地域の民族衣装を、服の形やテキスタイルの色、素材などから得られる情報を総合し、相互の文化的な繋がりを読み解くことができる。 本授業で得た知識を、実習授業時に応用することができる。
授業計画の概要	民族衣装は、人類が長い時間をかけて蓄積してきた、衣文化の知恵の結晶であるとも言える。民族衣装を学ぶことによって、人類の「おしゃれ」の歴史に対する認識を新たにし、これからの「おしゃれ」を考える。 人間は、「おしゃれ」することによって、自己を表現しようとする。民族衣装を着ることは、単純にとらえればある民族への帰属を表しているが、歴史や文化に注目して視野を広げて見ると、衣装の形や色だけでなく素材や技法などからも多様な情報を読み取ることができる。アジアを中心とした地域の様々な民族衣装を、多数の視覚資料や実物資料に接して、それぞれの魅力とその背後にある歴史や文化を理解する。 また、テキスタイルに対する視野を広げるために、民族衣装の素材と染め、織り、刺繍などの技法についても様々な事例を通して知識を深める。実習授業時に参考となり得る作例に、数多く触れる機会も提供する。演習を通して、民族衣装への理解を深める機会もつくる。
授業計画	1：趣旨と概要の説明―「おしゃれ」の源をさぐる 2：「おしゃれ」の源をさぐる―身体変工のいろいろ 3：身体をはった「おしゃれ」―タトゥーが持つ意味 4：巻き付ける「おしゃれ」―ひもから四角い布まで 5：絞（しぼり）と緋（かすり）―グジャラート州の事例―インド 6：中国少数民族の服飾1―タイ族―中国1 7：日本服飾史―「きもの」の成り立ちを中心に―日本1 8：「きもの」の意匠と役割―歌舞伎衣装を例に―日本2 9：「きもの」型の衣服、東アジアから見た「きもの」（演習）―日本3 10：「きもの」の素材と技法―友禅染と西陣織―日本4 11：「チャイナドレス」への考察―中国2 12：中国少数民族の服飾2―ミャオ族―中国3 13：民族衣装に染められた色「赤」―ブータン 14：民族衣装と藍染め 15：授業全体のまとめ
実務経験のある教員	
授業時間外学習	図書館などで次回の授業のキーワードを調べ、予習すること。授業後に配布資料をファイルし、図書館で参考図書のリストから本を借りて読むなどの復習を行うこと。
評価方法	授業中に実施する小レポートを40%と試験期間に行う定期試験60%で評価。 1/3以上の欠席は授業放棄とみなし、原則として単位付与はしない。
指導方法	授業後に、提出された小レポート課題の内容に基づいて解説をおこなうと同時に、寄せられた質問の中で、学習内容と深く関わるものへの回答もおこなう。
使用テキスト	資料を配布する。
参考テキスト・URL	
各自準備物	ファイル（配布資料をとじるため）
実習費	
その他	授業開始時刻より30分以降の遅刻は欠席とみなします。遅刻3回で欠席1回と数えます。 芸術を学ぶ学生に向けた授業として、視覚から情報を得られるように、多くの画像や動画、時には現物を交え、演習も取り入れながら民族衣装について学べるように工夫をしています。視覚をしっかりと働かせながら受講してください。

科目名称	テキスタイルパターンデザイン		授業コード	10046090	
担当教員	繁田 真樹子				
単位数	2	授業形態	演習	科目分類	ファッションデザイン
年次	2	開講年度	2023	開講学期	前期
関連資格					

授業実施方法	対面
使用するアプリ等	
履修制限等	ファッションデザイン学科生のみ履修可能 機材の都合で20名まで
授業の目的と到達目標（学習成果）	スケッチから柄をデザインし、型紙を彫り、糊置きをして染色をする基礎的かつ伝統的な防染方法である型染めの基本を修得する。同時に、基本となる型染めの技術を踏まえ、一つの形を繰り返して生まれるデザインであるテキスタイルパターンを学ぶことでテキスタイルデザインの基本的な表現力と技術力を身につける。
授業計画の概要	植物をスケッチし、それをもとに染色の技法に合わせたデザイン化を行う。ひとつの絵柄を繰り返すことで、布の上に連続した模様をデザインし、型染の技法を用いてバンダナの布を染める。
授業計画	1：授業概要の説明・バンダナについての解説 2：スケッチ 3：スケッチ 4：柄のデザイン（シルエット化） 5：柄のデザイン（シルエット化） 6：リピート柄への展開 7：リピート柄への展開 8：型紙制作（下絵） 9：型紙制作 10：型紙制作・糊置き 11：型紙制作・糊置き 12：糊置き・染め 13：糊置き・染め 14：作品発表、講評 15：作品発表、講評
実務経験のある教員	
授業時間外学習	授業前には前回授業分の作業を終えられているように復習すること。
評価方法	作品 80%、制作レポート 10%、作品発表 10%を総合的に評価する。 出席回数 10 回に満たないものは E 評価となる。
指導方法	最終回に講評を行う。
使用テキスト	オリジナルテキストの配布
参考テキスト・URL	授業風景参考動画 { https://youtu.be/zhxjTHzk2lw }
各自準備物	スケッチブック、鉛筆、カッターナイフ、カッターマット、エプロン
実習費	布代 約 500 円
その他	

科目名称	アパレル素材論		授業コード	20041080	
担当教員	横山 早美				
単位数	2	授業形態	講義	科目分類	選択
年次	2	開講年度	2023	開講学期	後期
関連資格	教職				

授業実施方法	対面
使用するアプリ等	
履修制限等	「その他」参照
授業の目的と到達目標（学習成果）	アパレル素材に要求される性能を理解するため繊維、糸および布（織布・編布など）の基礎知識の学びからその科学的特性について考察できる能力が身に付く。一方、最近の新素材の知識やファッション業界の問題点について思考し、意見を述べるができる。 ・アパレル素材に要求される性能について理解し、繊維、糸、布の各段階の科学的特性について説明できる。 ・織研新聞や文献から新素材について深く理解する。 ・持続可能な社会を目指すアパレル業界の現況を理解し、他者に伝えることができる。
授業計画の概要	第2回～第6回まではアパレル素材の基礎知識を学び、次に第9～13回は人体の生理機能からアパレル素材に要求される性能を理解するとともに様々な特殊加工について学ぶ。14、15回は、「持続可能な社会を目指すファッション業界の取り組み」について授業内配布の資料ならびに各自の興味・関心の情報をまとめパワーポイントによるプレゼンテーションを実施する。これは、将来の就活での面接を想定して行うものである。授業ではアパレル素材への関心が深まる工夫として、実際に布に触れたり、簡易な実験も行う。
授業計画	1：授業をはじめるに際してのオリエンテーション 2：繊維の種類と構造・性能（1）植物繊維 3：繊維の種類と構造・性能（2）動物繊維 4：繊維の種類と構造・性能（3）繊維の化学 5：繊維の種類と構造・性能（4）再生繊維と半合成繊維 6：繊維の種類と構造・性能（5）合成繊維 7：織研新聞記事の輪読会—新聞記事についての所見—【課題A】 8：第2回～6回 小テストと解説 9：織物組織—三原組織の体験—【課題B】 10：アパレル素材に要求される性能（1）被服材料の保健衛生的性能 11：アパレル素材に要求される性能（2）被服材料の特殊加工性能 12：特殊加工を施したアパレル素材（1） 13：特殊加工を施したアパレル素材（2） 14：「持続可能な社会を目指すファッション業界の取り組み」プレゼンテーション（1） 15：「持続可能な社会を目指すファッション業界の取り組み」プレゼンテーション（2） まとめ【レポート「持続可能な社会を目指すファッション業界の取り組み」提出】
実務経験のある教員	
授業時間外学習	1)ファッション市場の動向、社会で起きている問題や課題について情報収集すること。 2)コレクション雑誌やファッションに関わる書籍に目を通す習慣を身に付けること。
評価方法	1)【課題A】10%、【課題B】10%、【小テスト】50%、【プレゼンテーション・レポート】30%、で評価する。 2) 上記1)を全て提出していない場合、また出席が10回に満たない場合はE評価となる。
指導方法	・翌週または授業の最終日 ・課題およびレポートには、採点ならびにコメントを記載する。
使用テキスト	・関間正雄監修「服地の基本がわかるテキスタイル事典」株式会社ナツメ社（2018）2,300円（税別） ・オリジナルプリントを配布する
参考テキスト・URL	・日下部信幸「生活のための被服材料学」家政教育者（2007） ・秋山隆一他20名「第一部 繊維に関する一般知識」日本衣料管理協会（2016） ・日本企画協会監修「JISハンドブック繊維2016」日本企画協会（2016） ・関間正雄監修「服地の基本がわかるテキスタイル事典」株式会社ナツメ社（2018）
各自準備物	・準備物がある場合は、事前に授業内で告知する。
実習費	実習費は、ありません。
その他	・ファッションデザイン学科の学生は履修することが望ましい。

科目名称	シルクスクリーンプリント			授業コード	20043123
担当教員	中田 一範				
単位数	2	授業形態	演習	科目分類	選択
年次	3	開講年度	2023	開講学期	後期
関連資格	教職				

授業実施方法	対面
使用するアプリ等	
履修制限等	F生限定、「その他」参照
授業の目的と到達目標（学習成果）	テキスタイルプリントの知識、デザインソースからパターンへの展開、シルクスクリーン技法を用いたテキスタイルの制作を習得できる。
授業計画の概要	テキスタイルに表現されるシルクスクリーンプリント（捺染）は、色彩豊かで多様な表現がみられ、パターン化されたものから写真表現・ロゴなど幅広い表現があります。その用途も衣服からインテリア・建築空間にまで広がっています。この授業では、イメージをデザインへ展開し、リピート表現をプリントテキスタイルへする工程を修得します。
授業計画	1：授業説明 2：シルクスクリーン技法の解説とプリントデザインの紹介 3：デザインイメージの表現 4：デザインソースの展開 5：デザインソースの展開 6：リピートと色彩計画 7：紗張り 8：デザイン送りの調整 9：版下作成 10：スクリーン感光と試しプリント 11：インク作成 12：プリント1 13：プリント2 14：作品の仕上げと発表準備 15：作品発表と講評
実務経験のある教員	
授業時間外学習	テキスタイルプリントの作例を調べ、図書館等でイメージの収集を行うこと。時間内にできなかった作業は次の授業までに完成させておくこと。
評価方法	作品70%、授業態度30%で評価する。 授業態度にはグループ作業での貢献度を含む。 課題未提出、出席が10回に満たない場合はE評価となる。
指導方法	最終回に講評を行う。
使用テキスト	資料を配布する。
参考テキスト・URL	
各自準備物	作業着、必要なコピーは各自で行うこと。
実習費	材料費1500円（紗、インク、布）
その他	機材の数に限りがあるため受講人数制限を行う（15名）。 初回の授業で調整をするため、必ず出席すること。 毎回出席点呼時に不在の場合は欠席とする。

科目名称	染色表現	授業コード	20043103		
担当教員	担当未定（教員）				
単位数	2	授業形態	演習	科目分類	選択
年次	1	開講年度	2023	開講学期	後期
関連資格	教職				

授業実施方法	対面授業を前提とする
使用するアプリ等	
履修制限等	F 生限定
授業の目的と到達目標（学習成果）	染色加工についての知識を得て、基礎的な技法を学び、染色表現による作品制作ができる。染色表現を理解・経験することによって、テキスタイル表現へと結びつけることができる。
授業計画の概要	繊維の種類の違いによる染料について学ぶ。また、染色方法を実践することで表現へと結びつけ作品制作しプレゼンテーションする。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション／課題概要（染料について） 2. 技法説明・サンプル制作 1（植物染料・準備） 3. 技法説明・サンプル制作 2（植物染料・染色） 4. 技法説明・サンプル制作 3（精練・浸染） 5. 技法説明・サンプル制作 4（ロウケツ染） 6. 技法説明・サンプル制作 4（ロウケツ染・染色） 7. 技法説明・サンプル制作 4（ロウケツ染・脱ロウ） 8. 技法説明・サンプル制作 5（筆描き染） 9. 技法説明・サンプル制作 6（板締め絞り） 10. 技法説明・サンプル制作 7（縫上げ絞り・縫い） 11. 技法説明・サンプル制作 8（縫上げ絞り・染色） 12. 制作 1(プラン・ドローイング) 13. 制作 2（染色・オリジナルデザイン構想） 14. 制作 3（染色・仕上げ） 15. プレゼンテーション・講評
実務経験のある教員	
授業時間外学習	レポート。 作品制作のためのアイデアや資料収集。 授業内に終わらなかったサンプル制作や本制作は次回授業までにお知らせすること。
評価方法	取組み姿勢 20%、サンプル・レポートのファイリング資料 50%、最終作品 30%、
指導方法	15 回目に講評を行う。
使用テキスト	資料配布する
参考テキスト・URL	
各自準備物	筆記用具、画材、スケッチブック、ハサミ、ゴム手袋、その他授業で案内される用具等
実習費	布代として 500 円
その他	

科目名称	ニットデザイン		授業コード	20043134	
担当教員	重本 昌利				
単位数	2	授業形態		科目分類	
年次		開講年度	2023	開講学期	後期
関連資格	教職				

授業実施方法	対面
使用するアプリ等	
履修制限等	F 生限定、「その他」参照
授業の目的と到達目標（学習成果）	ニット CAD や編機の操作を学習し、ニットデザイナーとしての基礎的な知識を身につける。
授業計画の概要	編物組織のデザインを応用する方法を実践的に学ぶ内容である。編物は、軽く伸縮性に富み、衣服製作の材料として可能性が高い素材である。本講座では、編物の基本的な構造や素材としての特徴を解説する。 家庭用編み機を使つての組織編みについて学習する。 また、本学にある無縫製編み機を用いて帽子、手袋、ストール等をデザイン制作し、コンピューター制御横編機の操作方法を学習する。
授業計画	1：ニットの基礎学習（全般） 2：ニットの基礎学習（組織編み） 3：ニットの基礎学習（ジャカード） 4：ニットの基礎学習（インターシャ） 5：家庭用編み機の基本的な操作の学習 6：家庭用編み機の編地作成① 7：家庭用編み機の編地作成② 8：家庭用編み機の編地作成③ 9：家庭用編み機を使つてのオリジナル編地作成 10：家庭用編み機を使つてのオリジナル編地作成 11：SDS-ONE(ニット CAD)を使つてのニット CAD 学習（操作説明） 12：SDS-ONE(ニット CAD)を使つてのニット CAD 学習（デザイン） 13：無縫製ホールガーメント編機の操作基礎学習（操作説明） 14：無縫製ホールガーメント編機の操作基礎学習（デザイン） 15：講評会
実務経験のある教員	
授業時間外学習	雑誌、市場でのニット製品について調べておく。
評価方法	授業時間内のテストレポート提出、編機で制作した作品の課題提出により総合的に評価。
指導方法	
使用テキスト	適時指示する。自作プリントを配布。
参考テキスト・URL	
各自準備物	筆記用具、USB メモリー
実習費	
その他	ファッションデザイン学科生 20 名のみ

科目名称	ハンドメイドテクニック			授業コード	20047331
担当教員	福田 笑子	重本 昌利			
単位数	2	授業形態	演習	科目分類	選択
年次	3	開講年度	2023	開講学期	後期
関連資格					

授業実施方法	対面
使用するアプリ等	
履修制限等	F生限定、「その他」参照
授業の目的と到達目標（学習成果）	テキスタイル素材を中心に展開される手工芸の技法を修得し、ハンドメイドマーケットでの販売を視野に入れたものづくりの展開方法を習得できる。 学んだハンドメイド技法を応用した作品を具体例として提案すること、自分の作品を販売する可能性について考察できるようにする。
授業計画の概要	ニット（編み）の原理と手編みの技法を基礎として展開する方法、編み技法を主体として平面から立体へ展開する方法、ニードルワークの技法を基礎として新しい視点で展開する方法の3つを学ぶ内容である。テキスタイル技法ごとに作品と技法の成り立ち、販売方法を解説し、ワークショップと講評を行う。
授業計画	1：作品解説（重本） 2：a. ニットを主体とした技法（重本）素材・道具の説明と準備 3：a. ニットを主体とした技法（重本）素材の加工 4：a. ニットを主体とした技法（重本）作品の仕上げ 5：a. ニットを主体とした技法（重本）講評と撮影 6：作品解説（福田） 7：b. 編みを主体とした技法1（福田）素材・道具の説明と準備 8：b. 編みを主体とした技法1（福田）素材の加工 9：b. 編みを主体とした技法1（福田）作品の仕上げ 10：b. 編みを主体とした技法1（福田）講評と撮影 11：作品解説（福田） 12：c. ニードルワークを主体とした技法2（福田）素材・道具の説明と準備 13：c. ニードルワークを主体とした技法2（福田）素材の加工 14：c. ニードルワークを主体とした技法2（福田）作品の仕上げ 15：c. ニードルワークを主体とした技法2（福田）講評と撮影
実務経験のある教員	ニット製造の経験、ハンドメイド市場で販売経験のある教員が具体的な制作方法と販売の可能性を講義する。
授業時間外学習	ハンドメイド作品をインターネット、アプリでリサーチしておくように。
評価方法	作品（3点）90%、授業態度と作品発表（10%）
指導方法	課題ごとに講評を行う。
使用テキスト	オリジナルテキストを配布。
参考テキスト・URL	
各自準備物	各回の初日に使用する道具、材料を指示するので準備すること。
実習費	a. ニット初回に、糸の太さの説明等を聞いてから、2回目以降は実費で糸を購入
その他	ファッションデザイン学科生限定 定員：15名 初回授業に必ず出席すること

科目名称	アパレルソーイング基礎		授業コード	10045224	
担当教員	小篠 朱美				
単位数	2	授業形態	演習	科目分類	選択
年次	1	開講年度	2023	開講学期	前期
関連資格	教職				

授業実施方法	対面
使用するアプリ等	
履修制限等	F生限定、「その他」参照
授業の目的と到達目標（学習成果）	<p>[授業の目的] 工業用ミシンを使用し、衣服の構成、縫製手順、縫製器具の操作を修得する。</p> <p>[到達目標] 工業用ミシンやその他の縫製機器を自身でセッティングできる。 工業用ミシンやその他の縫製機器を自身で操作できる。 衣服の構成（シャツ、パンツ）を理解し、基本的な縫製技術を身につける。</p>
授業計画の概要	<p>工業用縫製機器やその他の用具の使用方法を修得し、自身でミシンのセッティング及び操作を体得する。 布の裁断、基本的縫製技術を習得する。 衣服の構成を理解し、各アイテムや生地にならった仕様で縫製することを習得する。</p>
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション、工業用ミシン、オーバロックミシン、工業用アイロンの使い方 部分縫い 2. シャツの縫製 1：裁断 芯貼り 3. シャツの縫製 2：パッチポケット 前身頃端ロック 4. シャツの縫製 3：後身頃、ヨーク付け 5. シャツの縫製 5：袖付け 脇 袖口始末 6. シャツの縫製 4：襟作成 衿付け 7. シャツの縫製 6：裾始末 8. シャツの縫製 7：まとめ（シャツ穴 ボタン付け）仕上げアイロン 9. パンツ（ジーンズ）の縫製：1 裁断 芯貼り 10. パンツ（ジーンズ）の縫製：2 後パンツ作成（パッチポケット、ヨーク） 11. パンツ（ジーンズ）の縫製：3 前切ポケット作成 12. パンツ（ジーンズ）の縫製：4 小股 ファスナー付け 13. パンツ（ジーンズ）の縫製：5 脇 股くり 裾 14. パンツ（ジーンズ）の縫製：6 ベルト付け 15. パンツ（ジーンズ）の縫製：7 まとめ（本穴 フロントボタン打ち）
実務経験のある教員	<p>企業パタンナーとデザイナーの実務経験を活かし、アパレル産業の中で活かすことのできる縫製スキル（工業用縫製器の使用）、衣料設計（パターンメイキング）服飾デザインの必要な考え方を演習を通して伝え、教育を行う。</p>
授業時間外学習	<ol style="list-style-type: none"> 1) 衣服の仕組みを意識し、仕様など含め色々なデザインやディテールを日々観察すること。 2) 自分の持っている衣服の内側の構造や縫製仕様がどのようになっているのかを観察すること。 3) 毎回の授業で出された課題は必ず次回授業までに終了しておくこと。
評価方法	部分縫い：20%、シャツ課題 40%、パンツ課題 40%で評価する。
指導方法	<p>各回授業冒頭で課題の縫製行程や作業内容を説明し、目標までの課題を各自取り組む。 実習時は進行状況と理解度を把握し各自フィードバックする。 授業内容の課題の成果を作品完成を目標としそれらを最終成果物とする。</p>
使用テキスト	プリントを配布する。
参考テキスト・URL	
各自準備物	<p>ミシン、その他縫製機器の講習を行う第一回授業までに製図・縫製道具一式を用意しておくこと。配布資料や練習課題を整理するクリアファイル（リングファイル A4 クリアポケット）、各課題に必要な資材は授業内で告知する。</p>
実習費	縫製で用いる布に加え、糸、釦、副資材など及び機器以外の用具は各自用意する。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・本授業は、ファッションデザイン画の授業と一部連動している。 ・縫製機器の設備講習を兼ねるため、全員が受講することが望ましい。 ・1回目の授業ではガイダンスだけでなく、ミシン講習も実施するので、必ず出席すること。 ・受講人数の状況によりクラスを分けて実施する場合がある。その場合は連絡内容に準じて受講すること。

科目名称	ファッションイラストレーション			授業コード	20045212
担当教員	金沢 香恵				
単位数	2	授業形態	演習	科目分類	選択
年次	1	開講年度	2023	開講学期	後期
関連資格	教職				

授業実施方法	対面
使用するアプリ等	
履修制限等	F生限定
授業の目的と到達目標（学習成果）	描きながらデザインアイデアを見出し、イメージを伝えるためのデザイン画を描く。 空間と立体とを仕分けているライン（輪郭線・シルエット）を意識し、アウトラインのみに集中して描き、衣服の分量感やシルエットを素早く捉える画力を身につける。 画材や筆のストロークやタッチを活かして描いた線や形の思いがけない表情や面白い発見をデザインにつなげる。また、結果とし画材を活かした描画方法を習得する。
授業計画の概要	本演習では、人体と衣服の構造と機能を把握し、それらをふまえて形状、色彩、素材など具体的なデザイン画に展開できる描写を経験する。さらに、各種画材と材質の特徴を知り、独自のラインやディテール、色彩、さまざまな素材の表現技法を習得し、イメージの発展を促す能力を養う。
授業計画	1：授業概要説明 2：人体を描くーシルエットを捉える 3：人体を描くーアウトラインを捉える 4：ドレープを描く 5：ディテールを描く 6：モノトーンで描く 7：線で描く 8：ムードを描く 9：発想を描くー画材の違いによるタッチや効果を活かす 10：イメージを伝えるデザイン画ーテーマ構想 11：イメージを伝えるデザイン画ーイメージを描く 12：イメージを伝えるデザイン画ーポーズを描く 13：イメージを伝えるデザイン画ー着衣を描く 14：イメージを伝えるデザイン画ー色で描く 15：まとめ
実務経験のある教員	
授業時間外学習	スケッチ（人物を中心に興味のある対象全て）・資料収集・リサーチなど
評価方法	カリキュラム全体の中で作成した作品の提出により、その成果を評価する。（時間外学習の成果を含む） 描画力 20%、発想力 20%、構想力 20%、作品数 20%、独自性 20% 作品の提出がない場合は E 評価となる。
指導方法	授業時間内の制作と成果を通して指導する。
使用テキスト	授業内にて配布
参考テキスト・URL	授業内にて提示する
各自準備物	スケッチブック、クロッキーブック、濃度の濃い鉛筆、カラーインク、水彩絵の具、色鉛筆、パステル、練り消しゴムなど
実習費	資料、画材費等 ¥ 3,500 程度実費を見込む。
その他	ファッションデザイン画の単位を修得している、または同等の知識と経験を修得していること。

科目名称	パターンメイキング基礎			授業コード	20045202
担当教員	権 裕美				
単位数	2	授業形態	演習	科目分類	選択
年次	1	開講年度	2023	開講学期	後期
関連資格	教職				

授業実施方法	対面
使用するアプリ等	KDU ポータル
履修制限等	F 生限定、「その他」参照
授業の目的と到達目標 (学習成果)	基本原型に始まり基本アイテムのパターンメイキングの活用法を修得する。身体と衣服デザインの関係を理解し衣服設計の基礎能力を身につける。軽衣料アイテムデザインにおけるパターンメイキング、デザイン展開ができるようになる。
授業計画の概要	衣服とは、曲面である人体を包み込む立体造形物である。衣服の機能性、身体およびその動きを人間工学として踏まえ、身体、衣服構造に基づいた衣服設計について解説を交えながら実施する。衣服デザインのイメージを具現化するために重要なプロセスを理解し、応用デザインとして簡単なデザインバリエーションまで展開する。衣服製品化に伴う工業パターン工程制作を行う。
授業計画	1：オリエンテーション：パターンメイキング、衣服構造の解説 2：原型解説・制作1：身頃 3：原型解説・制作2：身頃（ディティール） 4：原型解説・制作3：トフル検証 5：デザイン展開：ダーツの位置と名称、活用（課題提出1） 6：原型解説・制作1：袖 7：原型解説・制作2：袖（ディティール） 8：原型解説・制作3：トフル検証 9：デザイン展開：パフ袖、ケープ袖（課題提出2） 10：原型解説・制作：スカート 11：デザイン展開1：フレアスカート 12：デザイン展開2：ヨークスカート 13：原型解説・制作1：パンツ 14：原型解説・制作2：パンツ（ディティール）（課題提出3） 15：まとめ、評価
実務経験のある教員	
授業時間外学習	衣服デザインへの興味を深めアイテム名やディティールの名称、ファッション用語の知識を増やすこと。デザインに伴う衣服構造の知識を必要とするためマーケットにおける製品リサーチをすること。
評価方法	提出課題（計3回）、課題の完成度、理解度を評価する。 【課題1】30%、【課題2】30%、【課題3】30%、授業態度10%で評価する。課題の未提出、出席が10回に満たない場合、はE評価とする。
指導方法	課題のフィードバックは、次の授業時に課題内容についての見解や解説を行う。 質問に対して返答する。
使用テキスト	必要に応じてプリントを配布する。
参考テキスト・URL	
各自準備物	製図用紙、トレーシングペーパー、製図用筆記用具（色鉛筆含む）、カッター、紙用の大きめのはさみ、方眼定規、カーブルーラー、スイートカーブ、1/4縮尺定規、円定規、分度器、ペーパーウエイト、目打ち、ルレット、コンパス、カッター、スコッチテープ、その他製図道具
実習費	パターンメイキングを行う製図用紙やトレーシングペーパーは各自準備する。
その他	ファッションデザインコースへ進むことを考えている学生は必ず履修すること。 衣服制作を行いたい学生は、受講することが望ましい。 授業内容は進捗状況により変更が生じる場合がある。

科目名称	アパレル構成論		授業コード	20041200	
担当教員	笹崎 綾野				
単位数	2	授業形態	講義	科目分類	選択
年次	1	開講年度	2023	開講学期	後期
関連資格					

授業実施方法	対面授業
使用するアプリ等	KDU ポータル、Teams
履修制限等	
授業の目的と到達目標（学習成果）	<ul style="list-style-type: none"> ・「人体と衣服」の関係性を捉えるため、社会状況やファッション市場を把握し、課題を発見して説明できる。 ・「衣生活の基礎知識」を得るため、衣服の着心地、色彩、サイズ、管理について理解し、それらの内容を日常生活で活用できる。 ・「ドレーピング」と「被服人間工学」の思考を育むため、人体計測法などに触れ、体型・動作と衣服設計の関係性を理解できる。
授業計画の概要	アパレルとは衣服や衣類を総称したものであり、一般的に既製服を指す用語とされている。ここでは、アパレルを服飾全般と考え、衣生活の基礎知識とその実践法について講義する。本科目では、人体と衣服の関係について文化・生理・科学・工学・社会的側面から捉え、「ファッションの現場」「衣生活基礎」「人体と衣服」の三つのカテゴリーから講義し、個人およびグループワークを取り入れながら実施する。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1：オリエンテーション、ファッションの現場①衣服造形の現状 2：ファッションの現場②衣服造形の起源 3：人体と衣服①身体形状と身頃原型の関係性 4：人体と衣服②人体計測とその方法 5：人体と衣服③身頃原型の原理と作図法 6：人体と衣服④体型とサイズ 7：人体と衣服⑤体型特性とコーディネート 8：人体と衣服⑥【課題A】発表および講評 9：衣生活基礎①ファッションアイテム(基本型) 10：衣生活基礎②ファッションアイテム(デザインバリエーション)・発表【課題B】 11：衣生活基礎③ライフスタイルと衣服 12：衣生活基礎④色彩とデザイン 13：衣生活基礎⑤衣服管理 14：衣生活基礎⑥【課題C】小テストおよび解説 15：まとめ、【レポート「日常生活における衣服の問題点と課題」】提出
実務経験のある教員	
授業時間外学習	<ol style="list-style-type: none"> 1)ファッション市場の動向、社会で起こっている問題や課題について情報収集すること。 2)コレクション雑誌やファッションに関わる書籍に目を通す習慣を身に付けること。
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1)【課題A】20%、【課題B】20%、【課題C】20%、【レポート】30%、ワークシート10%で評価する。 2)出席が10回に満たない場合、【課題A】【課題B】【課題C】【レポート】を提出しない場合はE評価となる。
指導方法	<ul style="list-style-type: none"> ・授業内課題発表後、全体的な講評を行う。 ・課題およびレポート、授業コメントシートを採点し、返却時にコメントする。
使用テキスト	・プリントを配布する。
参考テキスト・URL	<ul style="list-style-type: none"> ・見寺貞子・笹崎綾野『ユニバーサルファッション - おしゃれは心と身体のビタミン剤 - 』織研新聞社 2020 ・富田明美編『生活科学テキストシリーズ新版アパレル構成学気やすさと美しさを求めて』朝倉書店 2016 ・増田智恵編『ファッションナブル衣生活 - 選び・着て・装い・管理する情報の提供 - 』三重大学出版会 2014
各自準備物	・準備物がある場合は、事前に授業内で告知する。
実習費	
その他	・ファッションデザインコースを希望する学生は履修することが望ましい。

科目名称	ファッションデザイン画			授業コード	10047230
担当教員	金沢 香恵				
単位数	2	授業形態	演習	科目分類	選択
年次	1	開講年度	2023	開講学期	前期
関連資格	教職				

授業実施方法	対面授業
使用するアプリ等	
履修制限等	F生限定
授業の目的と到達目標 (学習成果)	<p>授業目的 本授業ではファッションデザインの着想から構想及び発想の視覚化を作業の中で見出しデザイン画を描画し自身のアイデアのアウトプットしたスケッチブック制作の着地点を目的とする。</p> <p>到達目標 ・この授業ではまず描画に慣れ親しむことができる。 ・基本的な鉛筆スケッチ、コラージュやトレーシングを活用を元にデザイン構想ができる。 ・デザイン構想の手段として画材やテキスタイル素材を用いたグラフィティ制作及びスケッチブックを媒体にアイデアを構想しながらアウトプットする習慣を身につけることができる。</p>
授業計画の概要	<p>デザイン画のみならず、スケッチや素材からのテーマ発想がデザイン構想段階での基本手段となる様、を動かしながら発想することをトレーニングする。 デザイン構想の即興的な発想も楽しむことを含めて、コラージュやトレーシングなどからテーマを構想し、描くことを習慣づけることを目指す。</p>
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス、鉛筆スケッチの基本練習 2. 鉛筆描写練習 (顔ディテール) 3. テーマ構想 (イメージ・カラー) 4. コラージュ制作 (各種素材) 5. 8頭身プロポーション描写 6. デザインリサーチ (シルエット・ディテール) 7. コラージュによるスタイリングデザイン 8. トレーシングによるデザイン考察 9. ラインペンで描くディテール描写 10. 素材収集と色構想 11. テーマからのデザイン画スケッチ 12. デザイン画作成 (構想) 13. デザイン画作成 (細部描写) 14. デザイン画作成 (素材と着色) 15. スケッチブックまとめ
実務経験のある教員	
授業時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> ・スケッチブック制作 ・リサーチ画像収集および参考資料収集 ・テーマからのイメージリサーチと素材収集
評価方法	<p>最終提出物 (スケッチブック) の内容を評価対象とする。 アイデアの豊かさや発展性を中心にエクササイズや過程を含めた課題成果 (デザイン構想の内容やデザイン画の表現方法) を評価する。 練習課題 10%, エクササイズデザイン画 40%, テーマ・コンセプト構想 10%, 着色デザイン画 40% 最終提出物の提出がない場合はE評価となる。</p>
指導方法	授業内で作業時間を設け、説明とともに課題制作を進める。
使用テキスト	資料を配布する。
参考テキスト・URL	
各自準備物	スケッチブック (B4 サイズ程度)、鉛筆 (2H~6B 程度)、消しゴム、水彩色鉛筆または色鉛筆、ラインペン、その他任意の画材 (マーカー、パステル、絵の具、カラーペーパー、など)、人物や衣服の写真、定規、トレーシングペーパー、素材、シルクピン、ローラーカッターなど
実習費	課題の取り組みに必要な用具、材料、素材などは学生自身が用意する。
その他	

科目名称	服装史		授業コード	20042052	
担当教員	谷 悟				
単位数	2	授業形態	講義	科目分類	選択
年次	2	開講年度	2023	開講学期	後期
関連資格					

授業実施方法	対面
使用するアプリ等	
履修制限等	
授業の目的と到達目標（学習成果）	服装史を知の世界に安住させず、現代ファッションとの架橋を試み、創作資源としての歴史服の活用性に目覚めることができる。また、歴史服に《私》という固有のリアリティを最大限に響かせつつ、《現在》という時代と交わるために手掛ける読み換えの作法を身に付けることで、クリエイティブの世界と真に向き合うセンスと力を養うことができる。
授業計画の概要	本講座は、年代記的な解説だけをおこなう服装史ではなく、創作に導く“生きた服装史”を学ぶ。アイテムごとにデザインを考察することにより、《衣》のデータベースを立体的に把握し、現代ファッションデザインに応用できる能力を身に付ける。また、歴史服をオマージュしつつも、それをどのように自らの制作へと結びつけるのか、というリサーチもおこなう。独創的な蘇生術が拓くクリエイションの世界に強い眼差しを注ぐことで、服装史がもつ挑発力をリアルに体感することを目指す。
授業計画	1：ガイダンス服装史を学ぶ意義<衣>のデータベースという考え方 2：身近なところにあった服装史（絵画、映画、写真集、音楽PV等） 3：年代記的考察①（古代・中世／エジプト、ギリシャ、ゴシックの服飾） 4：年代記的考察②（近世・近代Ⅰ／ビザンチン、ロココ、執政政府時代の服飾） 5：年代記的考察③（近代Ⅱ／アール・ヌーヴォー、アール・デコ、ニュールック以降の服飾） 6：アイテム別考察①（スカートの変遷）×服飾史への接近・私との交感 7：アイテム別考察②（ブラウス・パンツの変遷）×服飾史への接近・私との交感 8：アイテム別考察③（ワンピース・ドレスの変遷）×服飾史への接近・私との交感 9：アイテム別考察④（ジャケットの変遷）×服飾史への接近・私との交感 10：アイテム別考察⑤（コートの変遷）×服飾史への接近・私との交感 11：応用研究① <歴史服>のオマージュ～格闘、越境 12：応用研究② 世界的に活躍する著名なデザイナーたちによる独創的な蘇生術 13：応用研究③ リサーチワークⅠ（2023／2024AW+2024SS より事例分析） 14：応用研究④ リサーチワークⅡ（2023／2024AW+2024SS より事例分析） 15：総括 創作の回路に響かせる応用服飾史の力
実務経験のある教員	
授業時間外学習	テキストとファッション雑誌を何度も交互に観察し、相違点をつかみとる眼を養うこと
評価方法	レポート、ワークシート、授業運営貢献度、平常点（出席率も含む）で総合的に算出する。
指導方法	過去の受講生が作成した優秀なワークシートの内容を紹介することで、課題に取り組む上でのポイントを丁寧に指導し、作業の着手を促す。
使用テキスト	基本資料として、プリントを配布 『図解西洋服装史教科書ノート』小林治子、中村祐三編をはじめとする専門書及びファッション雑誌を活用
参考テキスト・URL	
各自準備物	基本資料(プリント)及びファッション雑誌
実習費	
その他	歴史服と真に対話を重ね、自分は、どこに興味をもち、なぜ、惹かれるのか反芻すること

科目名称	コスチュームデザイン		授業コード	20047340	
担当教員	金沢 香恵				
単位数	2	授業形態	演習	科目分類	選択
年次	2	開講年度	2023	開講学期	後期
関連資格					

授業実施方法	対面授業
使用するアプリ等	
履修制限等	F生限定
授業の目的と到達目標（学習成果）	<p>授業の目的 衣装構想の基本として歴史衣装の時代背景を理解し、それをもとに新たな時代の媒体に向けた衣装デザインの提案を構想するプロセスを習得する。</p> <p>到達目標 デザイン構想のプロセスを集約したデザインブック制作ができる。 デザインアイデアのきっかけとして、歴史衣装の知識の必要性を理解できる。 物語に描かれた人物像をもとに衣装デザイン構想ができる。</p>
授業計画の概要	指定の物語に登場する時代背景に即した歴史衣装をを再考察したデザインをもとに、表現媒体に即したコンセプトを検討し、新たな表現での衣装デザインの提案と構想過程をデザインブックとして整理する。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 課題説明 ストーリーと衣装の時代背景 2 指定課題1：キャラクターからの衣装考察 3 指定課題2：場面からの衣装アレンジ 4 指定課題3：カラーパレットと素材案 5 指定課題4：素材決定 6 指定課題5：歴史衣装デザイン 7 指定課題6：細部ディテール 8 指定課題7：シルエットの為の構造 9 衣装デザインの実例1 10 衣装デザインの実例2 11 作品課題1：媒体に向けての設定構想 12 作品課題2：設定に対する場面背景 13 作品課題3：設定に対するデザイン構想 14 作品課題4：カラーパレットと素材・衣装デザイン画作成 15 デザインブックまとめ
実務経験のある教員	
授業時間外学習	授業内にて指定の映像の視聴を指示する場合がある。その他デザインブック制作に必要とされる読書、リサーチ、スケッチ、素材探しやその他作業などは各自で進めること。
評価方法	授業内で指定される提出課題 20% 指定課題のデザインブック 40% 作品課題のデザインブック 40% それぞれの課題で構想のプロセスと結論に至る考察とデザインの関係性を評価する。
指導方法	指定課題では、指定された物語、場面、キャラクター、時代考証、衣装の考察からアレンジと素材選定をしキャラクターに即した衣装デザイン構想のについて説明する。作品課題では衣装を必要とする媒体に即した自身の設定による衣装デザイン構想について説明する。
使用テキスト	資料を配布および授業内で提示する。
参考テキスト・URL	CORSETS historical patterns & techniques Jill Salen 著 Patterns of Fashion1 1660-1860 Janet Arnold 著 Patterns of Fashion2 1860-1940 Janet Arnold 著
各自準備物	スケッチブック、画材、筆記用具、ハサミ、のり、定規、カッター、雑誌、リサーチ資料、生地、場合によって製図用具用品一式、その他素材など。
実習費	課題制作の画材・文具・素材等の材料は各自用意する。 リサーチに必要な図書閲覧や美術館を利用する場合の交通費・施設費等も自己負担。
その他	

科目名称	アパレルソーイング応用			授業コード	20045340
担当教員	小篠 朱美				
単位数	2	授業形態	演習	科目分類	選択
年次	2	開講年度	2023	開講学期	後期
関連資格	教職				

授業実施方法	対面授業
使用するアプリ等	
履修制限等	F生限定、「その他」参照
授業の目的と到達目標（学習成果）	<p>[授業の目的] 応用編としてミシン及びその他機器を用いた衣服の立体性と構造を理解し衣類を作成する。 基礎をふまえた上で新たな縫製技術 仕組みを習得する。 2重衣料の構造を理解して縫製する。</p> <p>[到達目標] 自身で機器を用いた衣服縫製ができる。 自身で付属機具を使用した縫製ができる。 衣服の構成（タイトスカート、テーラードジャケット）を理解し 裏地付きの衣料の縫製ができるようになる。</p>
授業計画の概要	<p>アパレルソーイング基礎で習得した衣服作成を基礎知識と応用技術を用いて2重衣料の縫製する。 衣服の立体性と構造を理解し衣類を作成する。 指示書を読み縫製工程と衣服構造を実制作により理解する。</p>
授業計画	<p>1：ガイダンス 2：タイトスカート縫製1：裁断・芯貼り・ダーツ縫製 3：タイトスカート縫製2：前後スカート地縫い コンシールファスナー 4：タイトスカート縫製3：裏地作成 ベンツ仕様 ウエストベルト 5：タイトスカート縫製4：まとめ（裾まつり縫い、ホック、裏地ループ）仕上げアイロン 6：部分縫い：箱ポケット、フラップ付き両玉ポケット 7：テーラードジャケット1：裁断・芯貼り 8：テーラードジャケット2：身頃縫製 胸ポケット作成 9：テーラードジャケット3：フラップ付きポケット作成 肩縫い合わせ 10：テーラードジャケット4：表前後身頃+裏襟縫い合わせ 裏前後身頃+表襟縫い合わせ 11：テーラードジャケット5：襟作成 前端（ラベル） 12：テーラードジャケット6：袖作成（表裏） 13：テーラードジャケット7：袖付け 裾 14：テーラードジャケット8：まとめ 中綴じ、星止め 15：テーラードジャケット9：まとめ（ボタン穴、ボタン付け）仕上げアイロン</p>
実務経験のある教員	<p>企業パタンナーとデザイナーの実務経験を活かし、アパレル産業の中で活かすことのできる縫製スキル（工業用縫製器の使用）、衣料設計（パターンメイキング）服飾デザインの必要な考え方を演習を通して伝え、教育を行う。</p>
授業時間外学習	<p>1) 普段興味のある衣服はもちろん TP0 にあった服への意識 いろいろなデザインやディテールも興味を持って日々観察すること。 2) 指示書の理解を深めるよう衣服の構造や縫製方法を観察すること。 3) 自分の持っている衣服の内側の構造や縫製仕様がどのようになっているのかを観察すること。 4) スケジュールを確認し行程の予習と、授業前に使う縫製器具の準備を各自しておくこと。 各授業で終わらなかった課題は次回までに終了しておくこと。</p>
評価方法	部分縫い：20%、スカート課題 30%、テーラードジャケット課題 50%で評価する。
指導方法	<p>各回授業冒頭で課題の縫製行程や作業内容を説明し 目標までの課題を各自取り組むが 授業時間は説明を中心とするため時間外学習として各自の課題制作を進めるよう指導する。 実習時は進行状況と理解度を把握し各自フィードバックする。 授業内容の課題の成果を作品完成を目標としそれらを最終成果物とする。</p>
使用テキスト	オリジナルプリントを配布する。
参考テキスト・URL	
各自準備物	製図・縫製道具一式、および配布プリントを整理するクリアファイル（A4）を用意する。各課題に必要な資料は授業内で周知する。
実習費	縫製練習及び作品縫製で用いる布、糸、釦、副資材などは各自用意する。
その他	<p>「アパレルソーイング基礎」を単位取得している、または同等の知識、技術を有していること。 本授業はコスチュームデザインと連動している。 ファッションデザインコース選択者は受講を推奨する。</p>

科目名称	パターンメイキング応用			授業コード	10145203
担当教員	権 裕美				
単位数	2	授業形態	演習	科目分類	選択
年次	2	開講年度	2023	開講学期	前期
関連資格	パターンメイキング技術検定 2 級				

授業実施方法	対面
使用するアプリ等	KDU ポータル
履修制限等	F 生限定、「その他」参照
授業の目的と到達目標（学習成果）	重衣料であるジャケット、コートなどに関わる衣服設計のパターンメイキング応用法を修得する。イメージ発想にはじまり平面パターンと立体造形構造を理解した上で多様なデザインの具現化を実現し、平面と立体の関係の整合性を図ることができる。複雑なデザインの衣服製品化に伴う工業用現物パターン工程制作ができるようになる。
授業計画の概要	「パターンメイキング基礎」で修得した基礎学習を基に重衣料の応用パターンメイキングを解説を交えながら実施する。ジャケットやコートに応用できるテーラードカラー、二枚袖、ラグランスリーブの構造を理解し、パターンメイキングを行う。ジャケットとコートのデザイン構築への理解を深め、バリエーションを考えたデザイン展開をする。ファッションデザインにおける平面と立体の関係を解説し独創力を伴う実践的モデルの制作を行う。
授業計画	1：オリエンテーション 2：テーラードジャケットモデル1：デザイン解説、身頃 3：テーラードジャケットモデル2：身頃（ディテール） 4：テーラードジャケットモデル3：衿 テーラードカラー 5：テーラードジャケットモデル4：袖 二枚袖 6：テーラードジャケットモデル5：袖 二枚袖（ディテール） 7：テーラードジャケットモデル6：工業パターンメイキング 8：テーラードジャケットモデル7：裁断時のパターン解説 （課題提出1） 9：ラグランコートモデル1：身頃 10：ラグランコートモデル2：衿 11：ラグランコートモデル3：袖 ラグランスリーブ 12：ラグランコートモデル4：工業パターンメイキング、裁断時のパターン解説 （課題提出2） 13：応用デザイン1：身頃 14：応用デザイン2：衿 15：応用デザイン3：袖 （課題提出3）
実務経験のある教員	
授業時間外学習	「パターンメイキング基礎」の履修内容を復習すると同時に、課題のジャケット、コートのデザインに伴う衣服構造の知識を必要とするためマーケットにおける製品リサーチをすること。広い視野を持ち衣服デザインへの興味を深めアイテム名やディテールの名称、ファッション用語の知識を増やすこと。
評価方法	提出課題（計3回）、課題の完成度、理解度を評価する。 【課題1】30%、【課題2】30%、【課題3】30%、授業態度10%で評価する。課題の未提出、出席が10回に満たない場合、はE評価とする。
指導方法	課題のフィードバックは、次の授業時に課題内容についての見解や解説を行う。 質問に対して返答する。
使用テキスト	必要に応じてプリントを配布する。
参考テキスト・URL	
各自準備物	製図用紙、トレーシングペーパー、製図用筆記用具、カッター、紙用の大きめのはさみ、方眼定規、カーブルーラー、スイートカーブ、1/4縮尺定規、円定規、分度器、ペーパーウエイト、目打ち、コンパス、カッター、スコッチテープ、その他製図道具。
実習費	パターンメイキングを行う製図用紙やトレーシングペーパーは各自準備する。
その他	「パターンメイキング基礎」を受講したものを対象とする。 ファッションデザインコースの学生は必ず受講すること。 卒業研究等で衣服制作を行う学生は受講することが望ましい。 授業内容は進捗状況により変更が生じる場合がある。

科目名称	ドレーピング		授業コード	10045261	
担当教員	笹崎 綾野				
単位数	2	授業形態		科目分類	
年次	2	開講年度	2023	開講学期	前期
関連資格	教職				

授業実施方法	対面授業
使用するアプリ等	KDU ポータル、teams
履修制限等	F 生限定
授業の目的と到達目標（学習成果）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 身体の形状と動作に配慮した衣服設計力向上を目的とし、タイトスカート、フレアスカート、ワンピースの基本アイテムをドレーピング法で設計できる。 ・ 複雑で装飾的な衣服造形力を養うことを目的とし、応用アイテムをドレーピング法で設計し、身体やデザインに応じた立体造形ができる。
授業計画の概要	ドレーピングは衣服設計法の一つであり、身体模型であるボディに直接布を沿わせ、立体的に衣服を造形する手法である。本演習では、ドレーピング法を用い、基本アイテム「タイトスカート」「フレアスカート」「ワンピース」の設計から応用課題の設計までを行う。特に応用課題では、左右非対称モデル、ドレープやルーシング技法を用いる装飾的なモデル、人体形状や動作に適したモデルなどドレーピング法が活かせる課題を提示する。
授業計画	1：オリエンテーション、ドレーピングの基礎、準備（ボディーの基準線、腕作り） 2：タイトスカート①前スカート、後ろスカート 3：タイトスカート②修正、再組み立て、講評 4：フレアスカート①前・後ろスカート 5：フレアスカート②修正、再組み立て、講評 6：ワンピース①前ワンピース 7：ワンピース②後ろワンピース 8：ワンピース③襟 9：ワンピース④袖 10：ワンピース⑤修正、再組み立て、講評 11：応用課題①前 12：応用課題②後 13：応用課題③修正 14：応用課題④再組立て 15：まとめ、発表・講評
実務経験のある教員	
授業時間外学習	1) 授業で制作したアイテムについて、型紙を作成すること。 2) 制作物の写真を撮り、現像ないしプリントアウトし、自己評価を行うこと。
評価方法	1) 課題作品 70%（タイトスカート 10%、フレアスカート 10%、ワンピース 20%、応用アイテム 30%）、作品写真・コメントシート 20%、授業態度 10%で評価する。 2) 出席が 10 回に満たない場合、課題作品と作品写真・コメントシートを提出しない場合は E 評価となる。
指導方法	・ 各アイテム作成後、個別に講評を行う。 ・ 発表（第 15 回）にて、応用課題の講評を行う。
使用テキスト	・ プリントを配布する。
参考テキスト・URL	
各自準備物	・ 制作に必要な材料費は自己負担とする。
実習費	・ シーティング、裁断はさみ、シルクピン、ピンクッション、IC テープ、テープメジャー、方眼定規、カーブローラー、セーラーテープなど。 ・ その他準備物がある場合は、事前に授業内で告知する。
その他	・ ファッションデザインコースに進む者は受講することが望ましい。 ・ 「パターンメイキング基礎」および「パターンメイキング応用」を受講していることが望ましい。

科目名称	アパレルCAD			授業コード	20043110
担当教員	権 裕美				
単位数	2	授業形態	演習	科目分類	選択
年次	3	開講年度	2023	開講学期	後期
関連資格	教職				

授業実施方法	対面
使用するアプリ等	KDU ポータル
履修制限等	F 生限定/14 名上限
授業の目的と到達目標（学習成果）	衣服デザインをする上で CAD を用いた衣服設計法の基礎的知識、技術を習得する。 身体、衣服構造に基づいた衣服設計力、平面設計と立体構造の理解力の向上を目指し、デジタルを活用した衣服デザインの応用ができる。 CAD の多様な用途と特性を理解し、デザインや目的に応じた技術を創造的衣服デザインに活かすことができる。
授業計画の概要	ファッションデザインにおいて衣服設計他、様々なプロセスのデジタル化は多様なファッションデザインのアプローチを実現可能するため技術革新が進み活用が求められる。アパレル CAD の基本的な知識を得た上でパターンメイキング、パターン展開に伴う基本操作方法を習得し、多様な技法を用いて基礎デザインに取り組む。
授業計画	1：オリエンテーション CAD について解説 2：基本操作1：プログラムの構成、基本機能、ファイル管理方法、機能キーの特性 3：基本操作2：基本機能を活用した直線、曲線の練習例題 （課題提出1） 4：ベシックスカート原型1：基本線 5：ベシックスカート原型2：ディテール 6：ベシックスカート原型3：デザイン検証および修正、CAD パターンデータ工業化 7：ベシックスパンツ原型1：基本線 8：ベシックスパンツ原型2：ディテール 9：ベシックスパンツ原型3：デザイン検証および修正、CAD パターンデータ工業化 （課題提出2） 10：上衣原型1：見頃 11：上衣原型2：ディテール展開 12：袖原型：基本線、ディテール展開 13：マーキング、グレーディング 14：入力および入力パターン補正 15：完成パターン確認および出力 （最終課題提出3）
実務経験のある教員	
授業時間外学習	CAD の基本機能を理解し、応用操作の復習をすること。
評価方法	提出課題（計3回）、課題の完成度、理解度を評価する。 【課題1】30%、【課題2】30%、【課題3】30%、授業態度10%で評価する。課題の未提出、出席が10回に満たない場合、はE評価とする。
指導方法	課題のフィードバックは、次の授業時に課題内容についての見解や解説を行う。 質問に対して返答する。
使用テキスト	必要に応じてプリントを配布する。
参考テキスト・URL	
各自準備物	ノート、筆記用具
実習費	
その他	積み上げ式の演習授業です。休まずに初回の授業から出席すること。

科目名称	ファッションアクセサリ			授業コード	20047261
担当教員	福田 笑子				
単位数	2	授業形態	演習	科目分類	選択
年次	1	開講年度	2023	開講学期	後期
関連資格					

授業実施方法	対面
使用するアプリ等	KDU ポータル
履修制限等	F 生限定
授業の目的と到達目標 (学習成果)	授業の目的：アクセサリの素材や技法を、広い視野で捉えて創造する。ファッションにおけるアクセサリの役割を理解し、提案する力を身につける。 到達目標：身近な素材を材料化し、造形へのイメージをふくらませてアクセサリを創作することができる。アクセサリ創作を通して、ファッションならではのスタイリングを提案することができる。
授業計画の概要	紙や糸などの素材で、組む・結ぶ・巻くなど原始的で多様な方法によって、独創的なアクセサリを創作する。テキスタイル・デザイン・スタイリングといったファッションのプロセスを学ぶ。
授業計画	1：オリエンテーション、課題説明 2：材料体験 1 3：材料体験 2 4：造形の実験 5：材料体験：自由選択 6：造形の実験（自由選択素材編）1 7：造形の実験（自由選択素材編）2 8：中間講評 9：アクセサリの加工と表現 10：「オリジナルアクセサリ」課題説明・試作 11：「オリジナルアクセサリ」制作 12：「オリジナルアクセサリ」制作 13：「オリジナルアクセサリ」制作 14：作品の仕上げとスタイリング 15：作品発表と講評
実務経験のある教員	
授業時間外学習	素材研究のため、図書館等で情報収集する。 時間内にできなかった作業は次の授業までに完成させておく。
評価方法	作品 70%、授業態度と作品発表 30% 課題未提出、出席が 10 回に満たない場合は E 評価となる。
指導方法	最終回に講評を行う。
使用テキスト	プリント資料を配布する。
参考テキスト・URL	『バスケットリーの定式』関島寿子 住まいの図書館出版局 1988 年 『500 Necklaces:Contemporary Interpretations of a Timeless Form』Lark Books 2006 年 『500 Baskets: A Celebration of the Basketmaker's Art 』Lark Books 2006 年
各自準備物	次回必要な物を授業内に指示するので、必ず持参すること。
実習費	作品制作に必要な材料費は自己負担とする。
その他	

科目名称	スタイリング		授業コード	20041162	
担当教員	成羽 学				
単位数	2	授業形態	講義	科目分類	選択
年次	2	開講年度	2023	開講学期	後期
関連資格	教職				

授業実施方法	対面
使用するアプリ等	
履修制限等	
授業の目的と到達目標 (学習成果)	スタイリングを通じて、SNS を含めたクロスメディアを活用したプロモーションの特性を把握できる。実際に SNS を運営し、様々なスタイリングについての講義と演習を行うなど、世間の注目を集める情報収集力とセルフプロデュース力を習得することができる。
授業計画の概要	高度なスタイリング技法を身に付けるには、現代のファッション動向や社会状況にも深い関心を持ち、SNS 含めたクロスメディアによるプロモーションの理解やカルチャー、映画、音楽などに興味を持つことが重要となる。本講座では、自分の興味や得意なことを見出すためのセルフプロデュース力と同時に、ファッションデザインを表現するために必要なスタイリング技法を習得について学ぶ。
授業計画	1：オリエンテーション、ディスカッション・ディベートによる「トレンド分析とファッションコーディネートの変遷」 2：調査学習による「SNS 時代のクロスメディアの特性と効果的なコミュニケーションツールとは」 3：調査学習による「1 週間シチュエーション別スタイリング」STYLING BOOK 制作① (個人ワーク) 4：反転授業による「1 週間シチュエーション別スタイリング」STYLING BOOK 制作② 5：「1 週間シチュエーション別スタイリング」STYLING BOOK 制作③、プレゼンテーション 6：PBL による「SNS 時代のスタイリングプロモーションテクニックとは」 7：「SNS によるスタイリングプロモーション&LOOK BOOK」制作①企画ブレインストーミング (グループワーク) 8：「SNS によるスタイリングプロモーション&LOOKBOOK」制作②調査学習 (衣装、ヘアメイク、ロケ地) 9：「SNS によるスタイリングプロモーション&LOOK BOOK」制作③フィールドワーク (学外撮影)、調査学習 10：フィールドワークの検証。反転授業「Plan-Do-See によるプレゼンテーションの方法」 11：「SNS によるスタイリングプロモーション&LOOK BOOK」制作④フィールドワーク (学内撮影)、調査学習 12：「SNS によるスタイリングプロモーション&LOOK BOOK」制作⑤作業 13：PBL による「ファッションデザインを表現するために必要なスタイリング技法とは」 14：「SNS によるスタイリングプロモーション&LOOK BOOK」制作⑥最終作業 15：「SNS によるスタイリングプロモーション&LOOK BOOK」プレゼンテーション、総評
実務経験のある教員	
授業時間外学習	現代のファッション動向に関心を持つことは重要である。ファッション雑誌、カルチャー雑誌、新聞、話題の映画等を積極的に見る習慣を身につけておくこと。
評価方法	授業への参加度および課題への取り組み 30%、演習および課題発表での評価 30%、最終発表、総合での評価 40%
指導方法	授業終了 10 分前に、全体的な講評。または提出された課題などを採点し、コメントをつけて返却する。
使用テキスト	必要に応じて資料を配付する。
参考テキスト・URL	授業内に適宜紹介する。
各自準備物	
実習費	
その他	授業は数回のスタイリングプラン、撮影演習などの積み重ねによる実習やグループワークによる作業を伴います。自分の興味や得意なことを見出すと同時に、クラスメイトとの積極的な行動とコミュニケーションを図って下さい。 また、撮影の際には、私物の衣装やアクセサリー、ヘアメイク道具などを持参してもらいます。

科目名称	コスメトロジー			授業コード	10041172
担当教員	半田 まゆみ				
単位数	2	授業形態	講義	科目分類	選択
年次	2	開講年度	2023	開講学期	前期
関連資格					

授業実施方法	対面
使用するアプリ等	
履修制限等	
授業の目的と到達目標（学習成果）	ファッションデザインをトータルなファッションとして、ボディと共にトータル美としてコスメトロジー（美容術）を考え、ヘアスタイルやメイクアップ、エステティック、ネイルなどのさまざまな技法を習得し、イメージ表現を促す能力を身につける。
授業計画の概要	トータルなファッションとして、また身体表現の一つとしてコスメトロジー（美容術）を考え、ヘアスタイルやメイクアップ、エステティック、ネイルなどに着目する。民族や時代背景、生活様式によるそれぞれのデザインの意味や流行の変遷を学び、髪や化粧がもっているメッセージ性も考える。また、アートとしてのヘアメイク作品を制作する。
授業計画	1：コスメトロジーとは ヘアスタイルのもつメッセージ性 2：ヘアスタイル流行の変遷日本のヘアファッション 3：ヘアスタイル流行の変遷日本のヘアファッション 4：ヘアスタイル流行の変遷西洋のヘアファッション 5：ヘアスタイル流行の変遷西洋のヘアファッション 6：ボーダレスな現代ヘアファッション 7：髪のコードを読む 8：メイクアップの意味と流行の変遷 9：日本の化粧 現代に生きる伝統化粧 10：メイクアップ技術の解説 11：アートとしてのヘアメイク表現（バーチャルヘア作品制作） 12：映画にみるヘアスタイル・メイクアップの流行 13：映画にみるヘアスタイル・メイクアップの流行 14：ネイル技術概論、エステティック概論 15：トータルビューティファッションとしてのまとめ
実務経験のある教員	
授業時間外学習	普段からファッション雑誌を見たり映画を観たりする時に、ヘアスタイルやメイクアップなどにも注目し、時代の流行を感じ取っておくこと。
評価方法	バーチャルヘア作品提出 60%、レポート提出 40%で評価
指導方法	提出された課題は、評価の解説をして返却する。 提出されたレポートは、コメントをつけて返却する。 課題を全て提出しない場合、また出席が 10 回に満たない場合は E 評価となる。
使用テキスト	プリント配布
参考テキスト・URL	『髪のコードを読む』半田まゆみ著女性モード社
各自準備物	バーチャルヘア作品制作に必要な物
実習費	
その他	

科目名称	被服人間工学		授業コード	10045021	
担当教員	見寺 貞子	小森 絵美			
単位数	2	授業形態	講義	科目分類	選択
年次	2	開講年度	2023	開講学期	前期
関連資格	教職				

授業実施方法	対面
使用するアプリ等	
履修制限等	なし
授業の目的と到達目標 (学習成果)	<ul style="list-style-type: none"> ・人間工学の基礎理論に基づき、着心地良く、着やすく、快適でかつ審美的な衣服設計理論が構築できる能力を習得する。 ・多様な人間の構造や変化を把握し、衣服設計に活かす能力を習得する。
授業計画の概要	人間工学は、人間の特性に基づいて人間が可能な限り自然な動きや状態で使えるように、モノや環境を設計しデザインに活かす分野である。本講座では、衣服設計に必要な不可欠な人体の構造や体型の特徴・人体の機能面と衣服設計の関わりについて学ぶとともに、年齢や国籍、障害の有無に関わらず誰もが快適な衣生活を送るための衣服設計理論を学ぶ。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション／被服人間工学とは (見寺) 2. 人体の構造／上肢・下肢・体幹・頭部 (小森) 3. 年齢と性別による姿勢の特徴 (小森) 4. 加齢に伴う生理機能変化 (小森) 5. 病気と運動機能変化／運動器疾患・内部疾患・中枢疾患 (小森) 6. 病気と運動機能変化／中枢疾患 (小森) 7. 病気と被服 (小森) 8. 病気と日常生活活動 (小森) 9. 体形と衣料サイズ／国内外のサイズ基準 (見寺) 10. 機能性を配慮した衣服設計／可動領域と衣服設計 (見寺) 11. 機能性を配慮したデザイナー／機能性と美 (見寺) 12. 人体計測法と実践／体型計測と原型・型紙制作 (見寺) 13. 体型・姿勢に合わせた補正方法／和服・洋服のリメイク法 (見寺) 14. 人間特性を配慮した衣服設計／高齢者・障害者の衣服設計 (見寺) 15. まとめ：被服人間工学の今後 (見寺)
実務経験のある教員	(見寺) 多様な年齢や体型の人に対し、ファッション商品をデザインし、企画・製作・販売を行ってきた。その実務経験と知識を活かして指導を行う。 (小森) 理学療法士として、加齢に伴う体型の変化や疾患による運動への影響などを捉えアプローチをしてきた。臨床経験を基にイメージしやすい指導を行う。
授業時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日の生活の中で身体の形態や動きを観察し、衣服の機能性との関係性について観察する。 ・多様な人たちの身体形状や動作状況を観察する。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回のコメントシート 15%、課題レポート 70%、課題発表 15%で評価する。 ・出席が 10 回に満たない場合や課題レポートを提出しない場合は E 評価とする。
指導方法	<ul style="list-style-type: none"> ・課題レポート、授業コメントシートを採点し、返却時にコメントする。 ・授業内課題レポート発表後、全体的な講評を行う。 ・毎回の質問に対し授業内で返答する。
使用テキスト	毎回の講義に対して資料を配布する。
参考テキスト・URL	<ul style="list-style-type: none"> ・見寺貞子・笹崎綾野「ユニバーサルファッションーおしゃれは心と身体のビタミン剤ー」織研新聞社 2020 年 ・中澤愈「衣服解剖学」文化出版局 1996 年
各自準備物	準備物がある場合は、事前に授業内で告知する。
実習費	なし
その他	人と衣服の関係性を知識と実践から学ぶ授業なので、コース専攻に関わらず履修することが望ましい。

科目名称	ファッションマーチャンダイジング			授業コード	10043063
担当教員	瀬能 徹				
単位数	2	授業形態	講義	科目分類	選択
年次	2	開講年度	2023	開講学期	前期
関連資格	教職				

授業実施方法	対面
使用するアプリ等	Teams
履修制限等	「その他」参照
授業の目的と到達目標（学習成果）	<ul style="list-style-type: none"> ・ファッションの分野を「社会性」というキーワードで分析する。新しい市場を予測できる力をつけるため、洞察力を身に付け、消費者の新しいライフスタイルを見据えた商品企画力を習得する。 ・消費者と作り手の良好な関係を探り、マーケットのニーズに適応する提案力を身につける。
授業計画の概要	近年、景気回復を期待する消費者にマインドシフトと呼ばれる新しい価値観や嗜好の変化が見られる。本講座では、地域性や時代性、また生活習慣に関わるライフシーンを再考し、マーケティングからセールスプロモーションに至るまで、トータルに提案できる商品企画を学ぶ。特に実践的内容が求められる分野であり、実際に現場で使用されている企画書など、自身の実務経験を教材にふんだんに取り入れ、実務に通用する手法を身につける。ファッションデザインが抱える現代の問題を見出し、今後の課題に向けて提案できる実践的方法論を学ぶ。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1：オリエンテーション及び授業内容・方針・目的・評価方法の説明 2：マーケティングの概念：背景・定義・基本理念 3：生活様式とファッションの関係 4：商品企画・販売計画・流通の仕組み 5：ファッション産業と小売業の変化 6：ファッションマーケティングサーベイについて：調査と分析 7：産業力とデザイン力：産業コンテクストブランディング 8：地場産業とダイヤモンドイノベーション 9：マーケティングサーベイ：市場調査・分析の結果発表 10：ファッションマーケティングに必要な人材とモジュールネットワーク 11：マーケティングの今後の課題 12：新たなブランドマーケティング 13：ブランドマネジメント 14：ブランドコミュニケーションの在り方 15：まとめ、マーケティングと次世代ターゲット
実務経験のある教員	ブランドを立ち上げる仕事を通じて市場調査・商品企画・販売計画に携わった経験を活かし、商品企画の需要と市場拡大の可能性を発掘する手法を講義する。
授業時間外学習	<ol style="list-style-type: none"> ①消費者としての自分の購買動機を客観視できる習慣を持つこと。 ②売れているモノに疑問や問題意識を持って接すること。 ③ファッションとそれ以外の商品についての接点を見つけること。
評価方法	授業毎のレポート及び、提案課題のプレゼンテーションによって評価する。
指導方法	<ul style="list-style-type: none"> ・レポートについては、授業毎に前回提出分のコメントや講評を行う。 ・提案課題については、発表時と返却時にコメントを行う。
使用テキスト	オリジナルテキストの配布
参考テキスト・URL	<ul style="list-style-type: none"> ・日経マーケティングジャーナル ・織研新聞 ・アパレルマーチャンダイザー（織研新聞社）
各自準備物	
実習費	
その他	履修はファッションデザイン学科の学生を優先させる。50名以内の人数制限を行う。

科目名称	ユニバーサルファッション		授業コード	20047311	
担当教員	見寺 貞子	石崎 真紀子			
単位数	2	授業形態	講義	科目分類	選択
年次	2	開講年度	2023	開講学期	後期
関連資格	教職				

授業実施方法	対面
使用するアプリ等	
履修制限等	なし
授業の目的と到達目標（学習成果）	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な人間の心理状況や身体特性を知り、個々に対応した衣服設計理論を習得できる。 ・ユニバーサルファッションの視点を、デザイン開発や市場に展開する能力を身につけられる。 ・さまざまな色覚特性のある方に配慮したカラーデザイン設計ができる。 ・多様な人、多様な状況下で、わかりやすく、間違えにくい情報の伝え方を習得する。 ・身体能力に応じてサービスを提供することができる。
授業計画の概要	近年、誰もが住みやすい社会の実現をめざして、生活の質向上に役立つ製品やサービスが望まれている。ユニバーサルファッションとは、「年齢、性別、能力に関わらずより多くの人が満足できるファッション商品の開発や商品を平等に選択できる市場を開拓すること」である。ユニバーサルファッションの視点をデザイン開発や市場に展開する能力を身につけることを目的とするため、実践的内容が求められる。本講座では、商品企画部門で業務していた経験を活かし、商品企画の基本的な知識と手法について具体的に事例を踏まえて講義する。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 時代を表現するデザイン（見寺） 2. ユニバーサルファッションのプロセスと手法（見寺） 3. シニアのおしゃれ学（見寺） 4. 障害者の身体特性と衣生活（見寺） 5. ユニバーサルファッションの工夫（見寺） 6. ファッション産業のアプローチ（見寺） 7. ユニバーサルファッション実現への試み（見寺） 8. カラーユニバーサルデザインとファッション ① 色の役割と色の見えるしくみ（石崎） 9. カラーユニバーサルデザイン ② 高齢者、白内障と色弱の見える特性（石崎） 10. メディアユニバーサルデザインの実践・伝わりやすさとは（石崎） 11. 施設やファッション販売のユニバーサルデザイン（石崎） 12. ユニバーサルサービスの意義とファッションとの関連（石崎） 13. 高齢者や聴覚に障害のある人へサービスとアパレル事例（石崎） 14. 車イスユーザーや視覚、内部障害のある人へのサービスとアパレル事例（石崎） 15. 授業のまとめ（見寺）
実務経験のある教員	（見寺）多様な生活者に対し、ファッション商品を企画デザインし、モノとコト（仕組み）づくりを提案してきた。その実務経験と知識を活かして指導する。 （石崎）ユニバーサルデザイン商品の企画開発の実務経験を活かし、社会還元できる実践的方法と知識を指導する。
授業時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> ・ユニバーサルを視点としたデザインやファッションに関わる情報に関心を持ち、授業資料とする。 ・毎日の生活の中で、身体の形態や動きを観察し、衣服の機能とデザインについて考える。 ・多様な人たちの身体形状や動作状況を観察する。
評価方法	毎回のコメントシート(30%)、課題レポート提出(70%)で評価する。
指導方法	・課題レポート、授業コメントシートを採点し、返却時にコメントする。・期末の授業アンケートの学生質問に対しては、授業アンケートフィードバックコメントで返答する。
使用テキスト	「ユニバーサルファッションーおしゃれは心と身体のビタミン剤ー」見寺貞子・笹崎綾野著 2020年（株）織研新聞社
参考テキスト・URL	
各自準備物	準備物がある場合は、事前に授業内で告知する。
実習費	なし
その他	今後の社会環境や社会状況も踏まえて授業内容を組み立てているので、コース専攻に関わりなく受講することが望ましい。

科目名称	ファッションアドバイザー		授業コード	20047280	
担当教員	石崎 真紀子				
単位数	2	授業形態	講義	科目分類	選択
年次	3	開講年度	2023	開講学期	後期
関連資格					

授業実施方法	対面授業
使用するアプリ等	
履修制限等	
授業の目的と到達目標 (学習成果)	<p>【授業の目的】 社会インフラが急速に変容し、消費者ニーズが多様化する中、ファッション小売業が利益を獲得するのは容易ではない。最前線である売り場での『販売のプロ』の在り方も変化が求められている。激動するファッションビジネスの現場において不可欠な、ファッションアドバイザーの基礎知識と、顧客満足につながる対応力を身に着ける。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・顧客心理を理解し、それぞれのお客様のニーズに沿った行動・コミュニケーションができる。 ・デザイナーやバイヤー、スタイリストなど、さまざまなファッション専門職種の役割が理解できる。 ・店頭商品の製造の各過程から商品管理までの理解し、お客様へのアドバイスに関連づけられる。 ・月別品揃え計画の立案および売り場へのオペレーションができる。 ・マーケティングの基本を理解し、ブランドやショップとしての戦略を説明できる。 ・接客マナー、言葉遣いを理解し、応用できる。 ・ファッショントレンドを理解し、顧客に適した衣服や服飾雑貨等のコーディネートが提案できる。
授業計画の概要	<p>ファッションアドバイザーとは、顧客に適したファッション生活のアドバイスを行う専門家のことである。本授業では、『販売のプロ』として必要な、顧客心理や市場の動向を読むマーケティングの知識、お客さまに喜んでいただける接客マナー・商品コーディネートのための知識、さらに魅力的な売り場演出やそのための販促、販売計画の立案の仕方を学ぶ。また、バイヤー、デザイナー、コーディネーター、起業家を目指す人にとっても、『販売職』の内容を知ることは基本であり、重要である。さまざまなファッション職種と『販売職』の関係という視点を取り入れ、ファッションビジネスの現状、変遷をひもときながらスライド形式で授業を行う。</p>
授業計画	<p>【ファッション販売】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1：ファッションアドバイザーの役割と連携する専門職種の内容 2：ファッション商品が店頭で並ぶまでの工程と売り場の役割 3：さまざまなファッション小売業の種類と特徴・販売業務の一日の流れ 4：顧客の購買心理のプロセスと販売員の役割・態度とは 5：売り場やビジネスで求められる接客マナーと接客の基本動作 <p>【顧客心理】</p> <ol style="list-style-type: none"> 6：マーケティングの基本・市場の変遷とクラスター分析について 7：プレバブルのクラスターの特徴と売り場例（シニア世代や50代以上） 8：バブル以降のクラスターの特徴と売り場例（40代～Z世代まで） <p>【魅力的な売り場づくり】</p> <ol style="list-style-type: none"> 9：売れる店舗づくりのための商品空間・販売員空間・顧客空間とは 10：売り場演出について（VMDの意義、展示と陳列、照明計画） 11：品揃え商品計画とは（商品のライフサイクルと生活カレンダーを中心に） 12：さまざまな販促戦略について（差別化のための売り場の工夫・顧客獲得方法） <p>【ファッション商品知識】</p> <ol style="list-style-type: none"> 13：ファッショントレンドの役割とプロセスおよび売り場との関係。 14：ファッション雑貨の役割と基本的なファッションストーリー（年代） 15：基本的なファッションストーリー（地域）と似合う色（パーソナルカラー）
実務経験のある教員	流通業（百貨店）でのコーディネーター、バイヤー、プライベートブランド（婦人服・用品）担当の経験を通して、販売業務の重要性ややりがいを伝え、他業種との円滑な連携によるキャリアアップの視点を大切に指導を行う。
授業時間外学習	授業前に、当該授業テーマに沿った情報を新聞、ニュース、ネット情報などから収集しておくこと。また、授業後は、講義内容への理解を深めるために配付資料を読み返すこと。講義内で示された、店舗環境、ディスプレイ、販売員の接客等をファッション小売店で観察する、関連記事を検索するなど、自身の興味を広げて確認し、独自の視点で評価すること。
評価方法	毎回の授業で配付する課題レポート 70%、コメントシート 30%で評価。

指導方法	・課題レポートの内容に応じて、次回の授業で模範解答の提示し理解を深める。 ・コメントシートの質問に対して、講義内容を振り返りながら解説を加える。
使用テキスト	毎回、資料を配布。
参考テキスト・URL	その都度指示する。
各自準備物	
実習費	
その他	

科目名称	皮革デザイン		授業コード	10043201	
担当教員	椎名 賢				
単位数	2	授業形態	演習	科目分類	選択
年次	3	開講年度	2023	開講学期	前期
関連資格					

授業実施方法	対面
使用するアプリ等	
履修制限等	F生限定、「その他」参照
授業の目的と到達目標（学習成果）	上下送りミシン、道具などの扱い方を学び、縫製、ヘリ返し、コバ処理などの皮革素材の加工技術を理解する。基本的な型紙の取り方、トートバッグの制作方法を修得する。
授業計画の概要	皮革素材はほかの素材には無い特殊な加工技術が必要である。機材や道具を適切かつ安全に扱えるように使用方法を学び修得する。確実に上下送りミシンの扱い方を修得する為に授業内で実技試験を行う。
授業計画	1：オリエンテーション・DVD「皮革の出来るまで」鑑賞 2：トートバッグのデザイン構想 3：左右対称、上下左右対称の型紙の取り方 4：トートバッグの型紙制作 5：上下送りミシンの扱い方 6：革の裁断 / 上下送りミシン実技試験 7：裏地の裁断 8：持ち手の組み立て 9：コバ処理の実習 10：革の漉き加工・ヘリ返し・マチの組み立て、縫製、糸処理の実習 11：持ち手の縫製 12：本体の縫製 13：裏地の縫製 14：総仕上げ 15：講評会
実務経験のある教員	革製品のデザイン、製作や革製品製作会社の技術指導の経験を活かして、皮革素材の基礎的な加工技術を教授する。
授業時間外学習	市場、インターネット、書籍等で皮革の知識を深め、革製品のディテール（ステッチ、コバの処理、副資材等）を専門店ですっかり観察しておくこと。
評価方法	上下送りミシン実技試験 20%、型紙の精度 20%、課題作品のクオリティ（ヘリ返し・コバ処理・ステッチ等）60%で評価する。
指導方法	授業内で個々にコメントする。
使用テキスト	
参考テキスト・URL	随時配布
各自準備物	スケッチブック、目打ち、ステンレス定規(300 mm, 三寸法師)、カッター(18 mm黒刃)、コンパス、銀ペン、のりペラ(40 mm)、ライター、ハンマー、両面テープ(3 mm, 5 mm)、コバ処理剤、ゴム糊、チケン紙(0.3 mm)、紙やすり(#240, #320, #400)、A4 クリアファイル、革(厚み 1.2 mm~1.8 mm程度)、裏地 詳しくはオリエンテーションで説明するので、その後購入すること。
実習費	
その他	・今後の制作活動、他授業で皮革素材の使用を考えている人は受講すること。 ・定員 20 名程度

科目名称	皮革デザイン応用			授業コード	20043210
担当教員	椎名 賢				
単位数	2	授業形態	演習	科目分類	選択
年次	3	開講年度	2023	開講学期	後期
関連資格					

授業実施方法	対面
使用するアプリ等	
履修制限等	F生限定、「その他」参照
授業の目的と到達目標（学習成果）	上下送りミシン、漉き機、道具などの適切かつ安全な扱い方を学び、皮革素材の加工技術を理解する。前期で学んだ皮革素材の加工技術に応用し、細部に至るまで完成度の高いレザーバッグの制作方法を修得する。
授業計画の概要	皮革素材の特性を理解し、基本的なバッグの型紙の取り方、芯材・補強の入れ方、金具の取り付け方、ファスナーポケットの作り方などレザーバッグの構成を修得する。
授業計画	1:オリエンテーション・DVD「鞆の出来るまで」鑑賞・漉き機の扱い方 2:トートバッグのデザイン構想 3:本体の型紙制作 4:パーツの型紙制作 5:革、芯材の裁断 6:パーツの組み立て、縫製（ヘリ返し、コバ処理等） 7:パーツの組み立て、縫製 8:本体の組み立て、縫製 9:外装の仕上げ 10:内袋の型紙制作 11:革、裏地の裁断 12:内ポケットの組み立て、縫製 13:内袋の仕上げ 14:総仕上げ 15:講評会
実務経験のある教員	革製品のデザイン、製作や革製品製作会社の技術指導の経験を活かして、皮革素材の基礎的な加工技術を教授する。
授業時間外学習	市場、インターネット、書籍等でレザーバッグの構成を観察しておくこと。特に持ち手、根革などのパーツの形状はしっかり観察しておくこと。
評価方法	型紙の精度 30%、課題作品のクオリティ 70%で評価する。
指導方法	授業内で個々にコメントする。
使用テキスト	
参考テキスト・URL	随時配布
各自準備物	スケッチブック、目打ち、ステンレス定規（300 mm, 600 mm, 三寸法師）、カッター（18 mm黒刃）、コンパス、銀ペン、のりペラ（20 mm, 40 mm）、ライター、ハンマー、両面テープ（3 mm, 5 mm）、コバ処理剤、ゴム糊、チケン紙（0.3 mm）、紙やすり（＃240, #320, #400）、A4 クリアファイル、革（厚み 1.2～1.8 mm程度）、裏地、芯材、金具、ファスナー 詳しくはオリエンテーションで説明するので、その後購入すること。
実習費	
その他	・前期「皮革デザイン」受講者のみ履修可能とする。 ・定員 20 名程度

科目名称	ファッション写真	授業コード	10047250
担当教員	迫田 真実		
単位数	2	授業形態	演習
年次	3	開講年度	2023
関連資格		科目分類	選択
		開講学期	前期

授業実施方法	対面授業 ※状況により遠隔授業を行う場合もあり
使用するアプリ等	ZOOM Microsoft Teams
履修制限等	F生限定、3回生優先。「その他」参照
授業の目的と到達目標（学習成果）	デジタル一眼レフカメラや大型ストロボ、自然光、現像ソフトの基本的な使用方法とその効果を理解し自身の思い描くイメージを写真で表現出来る技法を習得する。
授業計画の概要	ファッションデザイン分野では、多数のファッション誌に見られるようにビジュアル表現として写真撮影の技法が使用されている。本演習では、作品としてのファッション写真を目標に、デジタル一眼レフカメラを使用したスタジオ、屋外、屋内に於ける人物撮影の知識と技法を学習する。また、雑誌やパンフレット、ホームページ等の撮影に必要なノウハウを、実際にモデル選びやスタイリング・ヘアメイクも含めたラフ案作成し、撮影を通して実践的に習得する。
授業計画	1：ファッション写真について考える、演習説明及び参考作品鑑賞 2：デジタル一眼レフカメラの特性と効果（講義・実習） 3：デジタル一眼レフカメラの特性と効果（講義・実習） 4：自然光での撮影（屋外・室内）構図について 5：自然光での撮影（屋外・室内）構図について 6：スタジオ撮影（人工光の扱い方・効果） 7：スタジオ撮影（人工光の扱い方・効果） 8：スタジオ撮影（光や機材の扱い方でのイメージの変化） 9：RAW 現像による画像処理 10：人工光（ストロボ）を使用した暗い表現（日中シンクロ等） 11：人工光（ストロボ）を使用した暗い表現（日中シンクロ等） 12：スタジオファッション撮影・作品撮り 13：スタジオファッション撮影・作品撮り 14：最終作品講評 15：最終作品講評
実務経験のある教員	フリーカメラマンとしてファッション誌から文芸誌、カルチャー誌等のグラビア撮影から広告や単行本、書籍などのモデル撮影やポートレート撮影を担当した経験を活かし、人物撮影の知識と技法を実践的に指導する。
授業時間外学習	国内外のファッション雑誌や写真集を見て、好みの写真のイメージを明確にする。 デジタル一眼レフカメラの準備・確保（使用カメラの取り扱い説明書を含む）及び下記の各自準備物の用意。
評価方法	課題とレポートの提出と内容、小テストの成績を総合的に評価する。
指導方法	次回の授業内や講評時に提出された作品の優れた点や改善点を紹介。
使用テキスト	完全版 写真がもっと上手くなる デジタル一眼 撮影テクニック事典 101+ 上田 晃司 著 インプレス 発売日 2017/1/20 { https://book.impress.co.jp/books/1116101073 } 必要によってプリント配布
参考テキスト・URL	
各自準備物	デジタル一眼レフカメラ及び標準域を含むズームレンズの準備・確保（使用カメラの取り扱い説明書を含む）。最低限の機能は、交換レンズ脱着、マニュアル撮影・絞り優先モード・シャッタースピード優先モード・シンクロ端子または、ホットシュー（シンクロ端子を外部取り付けできる物）が取り付けられて、大型ストロボがシンクロする機種。（カメラメーカーによって一眼レフカメラの定義が曖昧のため、初回の授業には必ず各自一眼レフカメラを持参すること。また購入する場合は慌てて買わず、初回の授業の説明を聞いて相談の後に購入すること。初回
実習費	プリントアウト用の写真用紙
その他	専門的な機材を扱う実習につき、遅刻は認めない。 定員 10 名程度。履修する者は必ず初回の授業に参加すること。 ※初回の授業に出席することが受講条件である。 遅刻 2 回で欠席 1 回とカウントし、欠席 3 回で以降の受講は認めません。（授業の参加及び、単位の取得が出来ません）

科目名称	ファッションブランディング			授業コード	20043073
担当教員	岩田 直樹				
単位数	2	授業形態	講義	科目分類	選択
年次	3	開講年度	2023	開講学期	後期
関連資格					

授業実施方法	対面
使用するアプリ等	
履修制限等	「その他」参照
授業の目的と到達目標 (学習成果)	これまで企業活動の一環だったブランディング概念も、これからは社会活動の一環として概念が大きく変化していく。そういった背景において、ブランドの「価値観、世界観、倫理観」を自分の考えとして構築できる発想力と、それを論じることができるコミュニケーション技術を身につける。
授業計画の概要	ブランドとしての思想を言語化し、社会ニーズとマッチングさせ、アイデンティティの確立とコンセプト化をはかる基本スキル。それを軸に、消費者との良好な関係性づくりができる応用スキル。総合的なブランド経営感覚を高めるための、講義やディスカッションを交えながらスキルを高める。
授業計画	<p>授業計画</p> <p>1:オリエンテーション：ブランディングとは？</p> <p>2:ブランディングの基礎と原理 (1)</p> <p>3:ブランディングの基礎と原理 (2)</p> <p>4:マインド・シェアを高める (1)</p> <p>5:マインド・シェアを高める (2)</p> <p>6:マインド・シェアを高める (3)</p> <p>7:ファッション・ブランディング戦略 (1)</p> <p>8:ファッション・ブランディング戦略 (2)</p> <p>9:ファッション・ブランディング戦略 (3)</p> <p>10:ブランド・コミュニケーション (1)</p> <p>11:ブランド・コミュニケーション (2)</p> <p>12:ブランド・コミュニケーション (3)</p> <p>13:ブランディング実践とマネジメント (1)</p> <p>14:ブランディング実践とマネジメント (2)</p> <p>15:ブランディング実践とマネジメント (3)</p>
実務経験のある教員	様々なブランドデザイン、プロジェクトのブランド化、さまざまな業種の起業のサポートを手がける経験から、ブランドのコンセプトづくり、情報デザインの手法を指導する。
授業時間外学習	日々発信されるニュースや、そのコメントなどにアンテナを立て、リテラシーを磨き、世の中の価値観・倫理観を日頃から分析しながら、自分の考えが構築できるよう心構えておくこと。
評価方法	レポート及び課題の発表をプランニングの観点に立ち、合計100点満点で評価する。
指導方法	
使用テキスト	オリジナルテキストの配布
参考テキスト・URL	
各自準備物	
実習費	
その他	ファッションデザイン学科の学生を優先させる。60名以内の人数制限を行う。

科目名称	ファッション空間演出			授業コード	20045270
担当教員	瀬能 徹				
単位数	2	授業形態	演習	科目分類	選択
年次	4	開講年度	2023	開講学期	後期
関連資格					

授業実施方法	対面
使用するアプリ等	Teams
履修制限等	F生限定、「その他」参照
授業の目的と到達目標（学習成果）	<ul style="list-style-type: none"> ・ファッションショーやファッションプレゼンテーションの発想やシナリオ制作、表現の可能性について提案する力を身につける。 ・ファッション空間デザインの演出手法についての知識と技術を身につける。 ・ファッションと空間の関係性についての理解を深め、演出の可能性について理解する。
授業計画の概要	コレクションやプレゼンテーションの歴史を振り返りながら、ショー形式で行われる演出技法について学ぶ。ショーの演出に関わった自身の実務経験を活かし、広い視野で空間演出を理解し、制作に反映するための技術を指導する。実際に展示会、ファッションプレゼンテーションの現場に取組むことで、実践的な表現方法と伝達法を身につける。今後ますます領域を広げるファッション表現の一環として、音響・照明・映像の演出技術や、展示会場・舞台における空間表現の可能性を探る。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1：ファッションプレゼンテーションとは？ 2：ファッションデザインと演出 3：空間と演出効果 4：照明と音響効果① 5：映像効果 6：舞台効果① 7：テーマ設定 8：空間のデザイン①（会場設定） 9：空間のデザイン②（舞台設定） 10：プログラムの構成 11：台本の制作 12：照明と音響効果② 13：舞台効果② 14：演出効果の振り返りと確認 15：プレゼンテーションの実施
実務経験のある教員	ファッションを「伝える」ためのプロジェクトを企画・運営した経験を活かし、ファッションプレゼンテーションの計画と運営を具現化する方法について指導する。
授業時間外学習	インターネット、ファッション誌等を利用し様々なメゾンのショーを参考に自身が表現したいモノをイメージしておくこと。
評価方法	個人演出票（プレゼン案）の作成とファッションプレゼンテーションの実施内容により総合的に評価を行う。作品発表によるプレゼンテーションを実施しない者は課題レポートによる評価を行う。
指導方法	<ul style="list-style-type: none"> ・教員からの実例の紹介についてレポートを作成し、運営や演出の提案を行う。 ・履修生自らショーの構成や表現方法を提案し、受講生の意見・提案を集約し実施する。
使用テキスト	オリジナル作成資料を配布する。
参考テキスト・URL	https://www.wwdjapan.com/ https://www.vogue.com/fashion-shows
各自準備物	
実習費	各自制作にかかる製作費および情報収集時の交通費は実費とする。
その他	履修はファッションデザイン学科の学生を優先させる。50名以内の人数制限を行う。